

法善寺保育所民営化事業者選考委員会【二次審査・面接】

開催日時	平成 27 年 2 月 10 日（火） 10 時 35 分～11 時 15 分	
開催場所	不易創造館 「横山きのみ保育園」	
参加者	不易創造館	理事長 園長 園長予定者
	選考委員	吉川耕太（法善寺保育所保護者代表） 石迫陽子（法善寺保育所保護者代表） 堀智晴（日本保育学会理事、元常盤会学園大学教授） 村井一雅（公認会計士） 西育代（堅下北小学校区主任児童委員） 【計 5 人出席】
	事務局	己波理事（健康福祉部子育て支援課） 中川課長（健康福祉部こども政策課） 石橋課長補佐（健康福祉部こども政策課） 村井主幹（健康福祉部子育て支援課） 大野所長（法善寺保育所）
議事の内容		
<p>事務局： 実地審査に引き続き、面接審査に入らせていただきます。 所要時間については約 30 分を予定しております。 これからの進行につきましては、堀委員長に進行をお願いさせていただきます。</p> <p>委員長： 見学させていただきましたありがとうございます。限られた時間ではありますが、面接審査を始めさせていただきます。 いろいろと質問をさせていただきたいと思います。簡単に言いますと自己 PR、応募の動機、法善寺保育所を引き継いだ場合の保育所運営についてどのような考えをお持ちか、引き継いだ場合の合同保育、三者協議会についてどのように考えておられるか、保育の内容では給食について、特別保育についてのお考え、保護者、地域との連携についての考え、新しく引き継がれた場合の施設長、保育士の配置等についてのお考えを聞かせていただこうと思っています。 今日は保護者代表の委員も見えておられますので、遠慮なくお尋ねしていただけたらと思います。 大体このようなこととお話していただいてもよろしいですか。</p> <p>理事長： では応募の動機からでよろしいですか。 応募の動機につきましては、申込書の別添 1 の基本姿勢の方に提出させていただいておりますが、若干これに付け加えてお話をさせていただきたいと思います。 今まで 3 回の民営化を通して保護者の方からいろいろと学ばせていただきました。今回は柏原市の「子育てほっとプランⅡ」でも目標とされている「市民と</p>		

ともに育ちあえる共生の社会づくり」の中に法善寺の民営化を位置づけたいと思っています。子どもたちが共に育ちあえる楽しい保育所作りがそのことによって可能になるだけでなく、法人の質の向上、スキルアップにもつながっていけると考えたのが、応募の理由です。

これまでもいろいろなことを学ばせていただきましたが、保護者の皆様とともに作り上げていく民営化が、なぜ私たちに利益を与えてくれるかといいますと、理由は3つあります。

その一つは、保育所の民営化においては、もっとも不安と困難を強いられる保護者や子どもたちの思いを、法人が共有することがもっとも優先されるべき課題だと思っています。その課題に取り組むにあたって、民間へのこれまでの既成の考え方を一旦スクラップしてみる必要があるのではないかなど。

例えば最初に民営化を受けた時には、「民間の給食してますよ、何々もしてますよ」といいところをアピールしてしまった。そうすると今まで子どもたちや保護者が長い時間をかけて慣れ親しんだものを民間園が一方向的に良いものだからと変えていくというのは、子どもたち、保護者に混乱をきたす以外の何物でもなかった。という一つの反省に立ちまして、まずは公立保育園のやり方に沿ってみる。そのやり方においても、民間への考え方を持って引き継ぎ保育等に入っていくのではなく、一旦民間の考え方はおいておく、そしてどっぷりと公立保育園の引き継ぎ保育に参加させていただく、その中で初めて公立保育園のやり方が見えてくるんだと思います。頭のどこかに(民間園ならこうするのにな、ああすればいいのにな)と考えていると、結局は民間園の方針の押し付けになっている。まずは公立保育園のやり方に引き継ぎ保育の中で参加させていただくという事が非常に大事だと考えています。

二つ目に、柏原市が目標とする共生の社会づくりの理念の中に、この法善寺保育所の民営化を包含させる時に、これは最大の利益を保障される保育所作りが可能になると考えています。

先程「考え方の違いを素直に受け入れたい」という考え方の中で引き継ぎ保育に取り組んできたわけですが、この考え方の違いを受け入れるというところで民間と公立の考え方は違う、ましてや民営化の考え方も違う。その考え方の違いを受け入れるというところで、法善寺側も質の向上を図っていけると考えます。

私たちが保育所の中で、最も大切にしたいことは、それぞれの子どもたちが、それぞれに違っていることを認めていく、その違いの中で自立していくことを私たちは支援していく。

柏原市の共に生きる共生の社会の中には、子どもたちがともに育つ教育、自分を表現することが苦手な子、アレルギーのある子、家庭の貧困を抱えている子、病弱な子どもさん等々、みんな同じ子どもであるが、それぞれ異なったニーズを持ち合わせているだけだという考え方を保育所運営の根っことしていることで、共生の社会の一員としての保育所作りが可能になってくるのではないかと考えています。

三つ目は、柏原市保育所民営化ガイドラインに認定こども園とあります。勿論この認定こども園の問題は、まず法善寺保育所の民営化がうまく進んだ後の話ですが、当然保護者の皆様と合意という事が絶対条件となります。

我々不易創造館の保育園でも、平成 27 年度より順次、幼保連携型認定こども園への移行を計画しております。

この認定こども園の大きな目的の一つは、保育と教育の質の向上、就労の態様によって、子どもたちが施設を行き来することが無い、もう一つは、子育て支援の充実というのが大きな目的となっているのですが、この 3 つの目的が達成されたら、こども園は子どもたちに最善の利益が保証できるのかと言ったら、そうではないと思っているんです。

この 3 つの目的を達成されても、保育園の中にはどうしても排除する考え方、例えば障がい児の問題や、宗教的な問題、というような排除する要素というのが、認定こども園になったとしても残っていくと思うんです。ですから、すべての子どもたちを排除しないような保育園の在り方を目指していく中で、認定こども園が子どもたちの最善の利益を図っていけるそういう施設になっていけるだろうなと思っています。

この 3 つの理由が、今回の法善寺保育所の民営化を申し込ませていただいた理由です。詳しくは、申込書に書かせていただいております。

この園の PR、特色というのは、保護者の皆様とともにやってきた園です。こども公立保育園で 39 年保育士、園長をやってきた者、大阪市で公立保育士をやっていた者もおりますが、3 人とも今まで、引き継ぎ保育に入れていただいていた。

園の特色をよく聞かれるが、保護者とともに作り上げてきた園というのが一番の特色になっていると思います。民営化を通していろんなことを教えていただきました。

PR では、自然等いろいろあるのですが、一番大きな特色としては民営化だと思っています。

次に引き継ぎについてですが、保護者の方との信頼関係が形成されていくと、保護者の方にいろんな意見をたくさんいただきます。信頼関係を築くにあたって、最も大切なことは、引き継ぎ保育をしっかりやっていくこと、引き継ぎ保育だけではなく三者協議会を含めて、しっかりとやっていくことが大切なことと考えております。

引き継ぎ保育に入る時には、民間の考えを一旦おいておき、あくまでも公立保育園の職員として引き継ぎに入らせていただく姿勢が一番大切だと考えております。

引き継ぎ保育には、1 月から 3 か月間いかせていただくわけですが、今まで引き継ぎ保育に参加した職員を出来るだけ派遣していきたいと思っています。

特に障がいを持っているお子さんや課題のあるお子さんの引き継ぎについては、保護者を交えられるかどうか個人情報の関係もありますので難しいかもしれま

せんが、我々としてはできれば保護者も交えて引き継ぎも行っていけたらと考えております。これは誓約条件も出てくるかと思えます。

次に三者協議会ですが、保護者との理解を深めるこの三者協議は、今まで3回の民営化を進める中でも、絶大な力を持ってきたかと思えます。勿論その中には厳しい意見もありましたが、三者協議の中で初めは、どうしてこんなことを言われないといけないんだと感じたり、いろいろなことがありました。しかしよくよく聞いてみたら、皆さんの方でも子どもさんのより良い保育あるいは幸せを念頭に言われているという事が、はっきり感じる事が出来てきました。それからは、まずは聴く、そして一緒に考えていくというスタンスを堅持していくという風に我々も変わってきました。

委員 : やはり保護者の側からすると、変わるという事に不安が一番大きいと思えます。その辺の配慮というのはとても大事になってくると思えます。

理事長 : はい。その通りです。特におっしゃるように給食。これは慣れ親しんだものです。ここの園もそうですが、保護者の希望で玄米食にしている園もあります。保護者の方から、しばらくの間は公立の給食をそのまま踏襲していきたいというところで。

園長 : 私は長い間、和泉市の保育士をしておりまして、食育もありますがとても長い歴史があります。そのころから和泉市の給食は「みんなで考え作り上げた給食」という事で自信もあり、これは引き継いでいきたいという自分の思いもあったし、保護者の方も給食に多分満足して下さっていたと思えます。お互いの思いをよく話し合ったことと、現場にいて下さった調理員の方が一人入るという事でよりスムーズに運びました。

理事長 : 横山きのみ保育園民営化の時もそうだったのですが、公立の保育園に勤めておられた10名近くの方が、民営化にあたって異動してきています。加茂保育園も民営化の保育園ですが、12名公立の園から移ってきていただきました。そういう意味では、子どもたちも見慣れた顔でありますし、保護者の方も安心して民営化を受け入れて下さる。柏原の法善寺保育所におきまして、もちろん法善寺保育所のスタッフを準備しているのですが、できれば現在公立にお勤めの方をたくさん受け入れることが出来れば非常にありがたいなと思っています。

委員 : それは採用していただくという形ですか。

理事長 : そうですね。

委員長 : それではちょうど半分ぐらいの時間が経ちましたけれども、また後で補っていただけたらと思います。やり取りをして理解が深まればいいかなと思います。委員の方、遠慮なくどうぞ。

委員 : 障がい者用オストメイトのトイレが下にあったかと思いますが、あれは園児対応の者ですか。

理事長 : 保護者も含めて、この施設を利用される方はみなさん使われています。

委員 : 実際に園児も使われているのですか。

理事長： 障がいを持っておられる子どもが今5名。加配の対象にはならないが、配慮が要る子どもを含めて10名の受け入れです。各園大体10名ぐらいの受け入れをしております。

委員： 最初民間になることに保護者の方は、反対されている方も多いかと思いますが、民間になって良かったという声は実際ありましたか。

園長予定者： 最初話し合いの時に、視線が厳しくドキドキしておりました。オープンしまして、まず挨拶から始め毎日の積み重ねかなと思っていました。最初は挨拶も目を合わされない方もいたんですけど、朝夕の挨拶を重ねていく中で、今引き継ぎプラス2.3年になります。気になっていた保護者から「先生！」と声をかけて相談して下さるようになったり、「心配していたが、子どもが元気よくニコニコ保育園の事を家で楽しく語ってくれるんです。ありがとうございます。」と言っただけたりすることを、私はエネルギーとして毎日頑張っています。嬉しいことです。

委員： 法善寺と随分立地が違いますが、その辺はどうでしょうか。

理事長： その所在地ごとに保護者の考えが全く違うので、三者協議の中で保護者のご要望を聞かせていただき、それをどう受け止めていくのか。その機会を出来るだけたくさん持つことで、法善寺の地域での民営化が出来るのかなと思っています。

委員： 地域性よりは、中身を一緒にやることによって法人さんの方が地域に馴染んでいくというイメージですか。

理事長： 例えば行事ですが、これは地域に根差してきて、住民の方の考えや歴史というのが凝縮されたものであると考えています。そういうものは、我々は想像だけでは分からないので、実際に園に通っている方や、地域の方にお話を聞かないと、分からないものです。そこはしっかりと聞いていきたいなと思っています。

園長予定者： 行事は変えたくないですね。お祭りがあるから運動会を変えてほしいとか。まずお祭りの日程を聞いてから日程調整したり、まずは地域の方に聞くようにしています。

委員： 柏原も環境もとっても良く、子どもたちもすくすくと育ってきているかなと思います。

引き継ぎに関してご苦労されたことをお聞きしたいと思います。

園長予定者： この年で4歳児クラスに入りました。実習生のような思いで頑張りました。その時に一番つらかったことは、少し障がいを持った子どもがいたのですが、そのようなお子様にとっては、先生が第1なんです。お二人の先生がおられて私は3番目の先生だったんですが、その子に「先生あっち行って！」と言われて、拒否されたりする中で涙することもありました。でも子どもにとってはその通りなんだなと思いました。子どもと日々過ごす中で、心開いてくれて引き継ぎの後その子の担任になりました。

卒園を見送りました。その後も遊びに来てくれます。大変だったけれどもいい思い出になっております。

理事長： これは市の側が、引継ぎの先生に、障がい児の情報が行かないこともあり、市の

方にもご都合があったのかと思いますが、引継ぎの先生が間に入ったような状態になりますので、ある意味気の毒だったなと思うのですが、市の方は、一定の情報の管理という意味で、引継ぎの職員を離れたという事もあるかと。

委員長： ソーシャルインクルージョンや、共生という事を書かれていますが、難しい理念だと思う。一人一人が違う存在として生きていて一緒に暮らすという事で、問題が起きたり、うまくいかなかったりするのが大事なんですよ。変に仲良くする必要もないと個人的には思っています。それが今、国際情勢やトラブルが起きてきていますけれども、今の子どもたちは、ぶつかり合ってもめたりすることが少なく、突然びっくりしたような事件を起こしたりすることがあるし、一人寂しくいる人が若い人にも増えています。ほんとに日本の課題でもあり世界の課題でもあるので、乳幼児期にそういう子ども同士とのぶつかり合い、もめ事を大事にその中で育てていく。おとなしく言う事を聞く子どもを育てるのはよくないです。ぶつかり合って他者や物事を理解していく。そういうのは理念として非常に大事で、先程一番最初に理事長がおっしゃった排除しない、一人一人子どもは、障がいの有無に関係なく、一人一人のニーズを持った存在なんだとおっしゃった。それは非常に大事で、民営化を通してスキルアップしていくという意気込みは素晴らしいと思う。

こういういろんなことを経験しながら、質や理念を問いなおしていく。

子ども同士のいろんな友達がいて、一緒に暮らすことが、ややこしいから面白い、とかいうそういうきれいごとではない子どもたちを見つめた上での実践をこの法人が作っていかれると、柏原市だけではなく、今の時代に必要な実践になってくるのではないかと思う。

理事長： インクルーシブの考え方に会ったきっかけは、35年前から障がい者の会と毎年一緒に活動させていただいています。

その時に障がいの捉え方の話になり、「障がいは個性ですよ。」といった時に「個性という事で解決するな。」と怒られた。

つまりそれぞれの子どもがいろんなニーズをもっているにも関わらず、ことさらに取り上げてくれるというのが、差別だと。その時は個性として捉える事がなぜ悪いのか分からなかったが、インクルーシブの考え方にであってから、考え方が根本的に違っていたことに気付いた。

あるお母さんからは、「障がい加配に手を取られているので、うちの子が寂しくしている。」と言われることもあり、障がい児を制限しようとする保護者が集まりました。ずいぶん議論しました。

加配の先生はみんなが仲良くするために障がい児にも健常児にもついているという事で大変な問題になり随分議論しました。その時に障がい児を受け入れてくれるなど言っていたお母さんたちが、今は社会福祉法人を立ち上げて活動されています。

委員長： では、大体よろしいですか。

立派な施設や実践の様子を見せていただいて、最初に理事長が言われたように、

今まであるいは今自分たちがやっていることを置いて、捨てて、新しい気持ちで臨むと言っていたので、なるほどなと思いました。

限られた時間で残念ですが、このぐらいで終わりたいと思います。

ありがとうございました。

事務局： 選考の結果につきましては、2月下旬ごろに書面によって通知をさせていただくことを予定しています。

ありがとうございました。